

## 生産性向上設備投資促進税制

今回は平成 26 年度税制改正で創設された制度のうち、おすすめの特別償却・税額控除の制度をご紹介します。

制度概要	<p>製造・販売等に用いる設備を取得し、一定の要件を満たしている場合に、特別償却・税額控除を受けることができる制度です。</p> <p>「先端設備」と「生産ラインやオペレーションの改善に資する設備」の 2 パターンがあり、各々に適用するための要件があります。</p>
税制措置	<p>特別償却…取得した資産の取得価額の全額（<b>即時償却</b>）</p> <p>税額控除…（建物・構築物）取得した資産の取得価額の <b>3%</b></p> <p>（上記以外）取得した資産の取得価額の <b>5%</b></p>
対象資産	<p><b>「先端設備」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械装置及び一定の工具、器具備品、建物、建物附属設備、ソフトウェア</li> <li>・各メーカーの中で一定期間内に販売開始した最新モデル</li> <li>・旧モデルと比較して年平均 1%以上の生産性の向上が確認できるもの（この確認は販売メーカーが行います。）</li> </ul> <p><b>「生産ラインやオペレーションの改善に資する設備」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械装置及び工具、器具備品、建物、建物附属設備、構築物、ソフトウェア</li> <li>・投資計画における投資利益率が年平均 15%以上（中小企業者等は 5%以上）</li> </ul> <p><b>（共通要件）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新品であること。（自社制作も可）</li> <li>・自己で購入したものであること。（リースの場合も一定のものは対象となります。）</li> <li>・生産・販売等に直接用いる設備が対象で、本店の機能しかない建物や寄宿舎、事務用器具備品、福利厚生施設等の間接的に必要とされる設備は対象外です。</li> <li>・取得価額は一定金額以上である必要があります。</li> </ul>
対象者	<p>法人・個人いずれも本制度を適用することができます。</p> <p>業種についても制限はありません。</p>
適用時期	平成 28 年 3 月 31 日までに取得等した場合に適用します。
注意事項	「生産ラインやオペレーションの改善に資する設備」に関しましては、事前に経済産業局に申請する必要がありますので、設備導入をご検討の際はお早めにお知らせ下さい。



(特別償却・税額控除とは?)

特別償却…通常の減価償却費に上乘せして償却できる制度。資産の費用化を早め、納税を遅らせる効果があります。

税額控除…本来納付すべき税額から一定金額を控除する制度。法人税(又は所得税)の税額そのものを減額するだけでなく、法人であれば法人税を課税標準(税金計算のもととなる数値)とする住民税を間接的に減額する効果もあります。税額トータルの効果では特別償却よりも税額控除のほうが有利となります。

## パンパシフィック水泳選手権2014

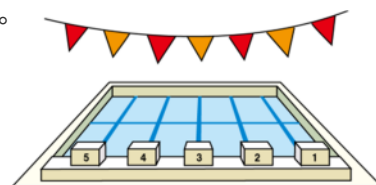
環太平洋地域を中心に4年に1回開催される、五輪・世界水泳に次ぐ世界3大会の1つパンパシフィック水泳選手権が8月21日より24日まで、オーストラリアのゴールドコーストにて開催されます。このパンパシフィック水泳選手権というのは、世界に君臨してきたヨーロッパ各国の勢いに危機感を持ったアメリカ、カナダ、オーストラリア、日本の4か国が、環太平洋の「水泳のレベル向上に力を結集」するため1984年に設立したパンパシフィック水泳協会が行う競泳の国際大会ですが、近年はアフリカ諸国など環太平洋ではない国からの参加も増えてきています。

競泳とオープンウォータースイミングの2競技合わせて36種目が行われ、今年日本からは入江陵介、瀬戸大也、荻野公介、渡部香生子、鈴木聡美、星奈津美、小関也朱篤選手らが出場します。

「超気持ちいい!」発言で有名な五輪大会連続金メダリストの北島康介選手は今回出場メンバーには入っていませんが、テレビ放送で特別解説者を務めるそうで、どのような解説を聞けるのかそれも楽しみです。

一方、先日横浜で行われたジャパンマスタース2014では100歳の長岡三重子さんが50メートルを1分33秒代で泳ぎ、自らが持つ世界記録を15秒以上更新されました。長岡さんは80歳の時リハビリをきっかけに水泳を始め、今でも週に3日は1000メートルから1500メートルを泳ぐそうです。

私も久しぶりに泳ぎに行ってみようかな。



## 最近読んだ本のご紹介

「決定版 日本のいちばん長い日」半藤一利(著) 文春文庫

ノン・フィクションです。

1945年8月15日正午、そこに至るまでの24時間を描いたドキュメンタリー。舞台は皇居とその周辺だけですが、綿密な取材と証言を基に再現されており、読み応え十分です。

広島・長崎への原爆投下。ソビエトの参戦。日本の敗北は誰の目にも明らかなのに、徹底抗戦を叫ぶ陸軍に引きずられ、日本政府は判断を下すことが出来ません。戦争を終わらせるということがいかに難しいことなのか、よく分かります。

私が担当させて頂いていたお客様で、まさにこの時、近衛兵として皇居の警備に就いていた方がおられました。私がこの本を読む前に亡くなられたのですが、もっと早くこの本を読んでいれば色々な話をお聞きできたのに、と思うと残念です。